

**施策の評価**

施策の柱 **柱④-1 心の教育改革 ～いじめ・不登校対策～**

**1. 施策の主要目標の達成度**

施策の主要目標	目標達成度	判断理由																													
<p>① <b>生徒指導体制の充実</b> 生徒指導主事のコーディネーター力等の向上を図り、開発的・予防的生徒指導を組織的に進めるとともに、教職員の児童生徒理解力を高めることにより、温もりのある学級づくりを進める。</p> <p>目標達成のための主な手段 事業 24, 26</p>	<b>B</b>	<p>◆コーディネーション型生徒指導主事養成プログラム ◇モデル校における組織的生徒指導の実践（4校総計） ・30日以上欠席者数：71人（H21）→60人（H22） ・学級満足群の割合の上昇：49%（H22前期）→53%（H22後期） ◇ブロック別連絡協議会（県内全公立中学校の生徒指導主事を参加対象として開催）のアンケート結果 ・参加者の約9割から肯定的、前向きな回答を得た。 ◆温かい学級づくりの推進 Q-Uアンケート活用研修会：136回実施、学級経営支援講座 99名参加</p> <table border="1"> <tr> <td></td> <td>H21</td> <td>H22</td> </tr> <tr> <td>Q-Uアンケート活用率(%)</td> <td>82</td> <td>86</td> </tr> <tr> <td>学級満足群の割合(%)</td> <td>55</td> <td>59</td> </tr> </table>		H21	H22	Q-Uアンケート活用率(%)	82	86	学級満足群の割合(%)	55	59																				
	H21	H22																													
Q-Uアンケート活用率(%)	82	86																													
学級満足群の割合(%)	55	59																													
<p>② <b>教育相談体制の充実及び対応力の向上</b> 児童生徒や保護者、教職員が抱える課題を解決するために、専門家の配置等の支援を行うとともに、悩み・課題を抱える児童生徒や保護者に対する教職員、専門家の対応力を向上させる。</p> <p>目標達成のための主な手段 事業 25</p>	<b>B</b>	<p>◆SC等配置状況及び相談対応件数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="2">配置状況</th> <th colspan="2">相談・対応件数</th> </tr> <tr> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H21</th> <th>H22</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>SC</td> <td>111校</td> <td>137校</td> <td>19556件</td> <td>24,076件</td> </tr> <tr> <td>AD</td> <td>21校</td> <td>21校</td> <td>2484件</td> <td>3,687件</td> </tr> <tr> <td>子どもと親</td> <td>20校</td> <td>19校</td> <td>5,153件</td> <td>6,250件</td> </tr> <tr> <td>SSW</td> <td>18市町村 26人</td> <td>18市町村 29人</td> <td>808件</td> <td>1,006件</td> </tr> </tbody> </table> <p>◆対応力の向上 ・SC等の専門力向上のためのスクールカウンセラー研修講座：年6回実施 ◆いじめ認知件数の増加（公立小中学校） 小学校 53件、中学校 111件（H21年度末） 一小学校 118件、中学校 215件（H22.12月末時点）</p>		配置状況		相談・対応件数		H21	H22	H21	H22	SC	111校	137校	19556件	24,076件	AD	21校	21校	2484件	3,687件	子どもと親	20校	19校	5,153件	6,250件	SSW	18市町村 26人	18市町村 29人	808件	1,006件
	配置状況			相談・対応件数																											
	H21	H22	H21	H22																											
SC	111校	137校	19556件	24,076件																											
AD	21校	21校	2484件	3,687件																											
子どもと親	20校	19校	5,153件	6,250件																											
SSW	18市町村 26人	18市町村 29人	808件	1,006件																											
<p>③ <b>学校不適応防止対策</b> 校種間の連携により、不登校・いじめ等に対する予防的な取組を推進するとともに、児童生徒の環境への対応力の向上や、人間関係を構築する力を醸成する。</p> <p>目標達成のための主な手段 事業 23, 24, 26, 27, 28</p>	<b>C</b>	<p>◆不登校児童生徒数 （公立小中学校、「問題行動・長期欠席（不登校等）」に関する調査（高知県方式）【速報値】） 719人（H21）→730人（H22）</p> <p>◆Q-Uアンケートにおける学級生活満足群に位置する児童生徒の割合（公立小、中学校）</p> <table border="1"> <tr> <td>・公立小</td> <td>58%（H21年度）</td> <td>→61%（H22年度）</td> </tr> <tr> <td>・公立中</td> <td>49%（H21年度）</td> <td>→53%（H22年度）</td> </tr> </table> <p>◆「中1仲間づくり合宿」の実績 実施校 46校（H21年度）→53校（H22年度） 引率教員アンケート 学級経営に役立っている 96%</p> <p>◆人間関係づくりプログラム「あつたかプログラム」（高知市教育委員会作成）を県内全小中学校に配付し、活用を促した。</p>	・公立小	58%（H21年度）	→61%（H22年度）	・公立中	49%（H21年度）	→53%（H22年度）																							
・公立小	58%（H21年度）	→61%（H22年度）																													
・公立中	49%（H21年度）	→53%（H22年度）																													
<p>④ <b>キャリア支援の推進</b> 人間関係形成能力・将来設計能力・情報活用能力・意志決定能力を育む支援を行うことにより、ニートや引きこもり、非行少年等に対して社会的自立を支援する。</p> <p>目標達成のための主な手段 事業 29</p>	<b>C</b>	<p>◆若者の学びなおしと自立支援事業の実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H21実績</th> <th>H22実績</th> <th>(H22目標値)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>はばたけネット登録者数</td> <td>5人/年</td> <td>26人/年</td> <td>50人/年</td> </tr> <tr> <td>こころサポートステーション 新規登録者数</td> <td>4.8人/月</td> <td>6.9人/月</td> <td>10.0人/月</td> </tr> <tr> <td>高知黒潮サポートステーション 新規登録者数</td> <td>4.6人/月</td> <td>7.5人/月</td> <td>8.0人/月</td> </tr> <tr> <td>進路決定率 (継続利用者)</td> <td>32.6% (48.5%)</td> <td>28.8% (30.7%)</td> <td>40%</td> </tr> </tbody> </table> <p>◆高等学校における予防的支援に焦点を当てた校内支援体制づくり支援対象校 10校→延べ89回のコーディネーター支援</p> <p>◆少年サポートセンターに「就労・就学支援教室」を開設 就学支援：支援対象者 6人→4人が高校進学 就労支援：支援対象者 10人（転職希望3名を含む）→5人が就職（アルバイトを含む）</p>		H21実績	H22実績	(H22目標値)	はばたけネット登録者数	5人/年	26人/年	50人/年	こころサポートステーション 新規登録者数	4.8人/月	6.9人/月	10.0人/月	高知黒潮サポートステーション 新規登録者数	4.6人/月	7.5人/月	8.0人/月	進路決定率 (継続利用者)	32.6% (48.5%)	28.8% (30.7%)	40%									
	H21実績	H22実績	(H22目標値)																												
はばたけネット登録者数	5人/年	26人/年	50人/年																												
こころサポートステーション 新規登録者数	4.8人/月	6.9人/月	10.0人/月																												
高知黒潮サポートステーション 新規登録者数	4.6人/月	7.5人/月	8.0人/月																												
進路決定率 (継続利用者)	32.6% (48.5%)	28.8% (30.7%)	40%																												

**2. 施策を構成する個別事業・取組の評価結果**

個別事業・取組	目標達成度	検討項目	総合評価
23 不登校・いじめ等対策小中連携事業	C	E	不登校児童生徒数を平成21年度より35人減少させる目標に対して14人減少となり目標は達成できなかった。しかし、委託4市の内3市、重点中学校10校の内7校においては、平成22年度長期欠席及び不登校児童生徒数は平成21年度末より改善できた。また、委託市や重点中学校では、不登校への早期の対応や児童生徒一人一人を大切にしたいきめ細かな支援、人間関係づくりの取組などにより、長欠・不登校の発生状況の改善が図られた。
24 温かい学級づくり応援事業	C	E	すべての小中学校の教員が児童生徒に対する理解をより深めるために、Q-Uアンケートを活用するという事業目的はこの3年間で概ね達成できたが、不登校児童生徒の出現率を見ると、この取組を学校組織として更に実践していく必要がある。
25 教育相談体制の充実 ・スクールカウンセラー活用事業 ・心の教育アドバイザー活用事業 ・子どもと親の相談員活用事業 ・スクールソーシャルワーカー活用事業	B	I	スクールカウンセラー等の専門性、スクールソーシャルワーカーの対応力は着実に向上している。また、教育相談体制が充実し、悩みや不安を抱える児童生徒や保護者等への支援が充実した。
26 コーディネーション型生徒指導主事の養成プログラム	B		モデル校においては、生徒指導の意義について教職員に理解、周知することができ、生徒指導主事を中心とする問題行動等の未然防止に視点を当てた組織的な生徒指導体制の充実が推進され、取組1年目として、一定の成果が得られたものと考えられる。
27 青少年センター主催事業 (中1学級づくり合宿)	A		いじめ・不登校等の要因の一つとなっている「中1ギャップ」の解消に向けて、宿泊研修前後の協議・アンケート等学校と密接に連携した取組ができた。
28 幅多青少年の家受入事業 (中1学級づくり合宿)	A		宿泊研修及び研修前後の協議・アンケート等を通じて、学校と密接に連携した取組ができるようになり、各中学校の実態に応じた研修プログラムの作成にもつなげることができた。 アンケート結果では「中1時の学級づくりに効果がある」など教員、生徒から高い評価を得ることができた。
29 若者の学びなおしと自立支援事業	C	E	目標は達成できなかったが、若者サポートステーションを核とした個別相談、就学・就労に向けた支援は有効に機能している。 また、個人情報の取扱の整備により、中学校卒業時及び高校中途退学時進路未定者の個人情報をも本人や保護者の同意を得なくても若者サポートステーションへ提供できるようになり、学校でつまづいた生徒を対象にした学校教育から継続支援が機能し始めた。

**3. 施策の総合評価と今後の方向**

総合評価	目標達成度	今後の方向
	<b>C</b>	
今後の方向		<p>①生徒指導体制の充実 児童生徒への効果的な支援を行うためには、児童生徒が抱える課題や問題行動に至る要因、背景を十分に把握することが重要であるため、組織的な生徒指導を進めることができる生徒指導主事の育成に重点を置いた取組を進める。 また、学校を組織的に機能させるための体制づくりに向け、学校管理職と連携を図る。</p> <p>②教育相談体制の充実及び対応力の向上 スクールカウンセラー等の配置校数は年々増加し、体制の充実を図ることはできている。今後は、心のケアの専門家であるスクールカウンセラーと、問題行動等の背景にある家庭や学校、友人、地域社会など、児童生徒を取り巻く環境の問題を解決するために関係機関等と連携した対応を行うスクールソーシャルワーカーの連携による取組を強化し支援体制を充実させる。</p> <p>③学校不適応防止対策 Q-Uアンケートの集計結果を学級経営に活かすため「学級づくりリーダー」を養成し不登校を生じさせない学級、学校づくりを各市町村で進める。 小中連携事業における効果的な取組の普及と中1学級づくり（仲間づくり）合宿の成果を紹介し実施校を増やす。</p> <p>④キャリア支援 若者サポートステーションの広報と市町村、高等学校等関係機関との連携強化を進めることにより、進路未定者を若者サポートステーションにつないでいくとともに、就学希望者への学習支援の強化に取り組む。</p>

